

編集後記

前回の編集後記でも「生理学：はじめの一步」proudly presented by 「生理学教育法シェアリンググループ」(生理学学会 special interest group) について書かせていただきましたので、今回も続報です。

オリジナルアドレスを取得しました。http://physiology.org です。サーバは機能や利便性を求めて、2台目から3台目に移動させている最中で、今後もさすらいの旅が続くと思われませんが、上記アドレスは当面、変更しないつもりです。

今回の最大のお知らせは computer-based testing (CBT) システムの導入です。学生さんにアンケートをとってみると、分かりやすい授業、アニメなどIT技術を駆使した教材などよりも、「練習問題」に対する希望はるかに強いことが分かりました。「生理学：はじめの一步」/CBTシステムでは、分野、難易度、問題数、時間が設定でき、問題のデータベースから無作為に試験が作成されます。選択肢から解答したのちに採点ボタンを押すと、ただちにサーバから正解、正解率、問題の解説が返ってきます。満点でなかった場合、間違った問題のみに再挑戦することも可能です。

問題ごとに難易度を5段階に登録してあります。

難易度1：ホルモンの血中濃度が高いと、ホルモンの作用は【多い/少ない】。

難易度2：あるホルモンに対する受容器を持たない細胞は、そのホルモンの分泌が亢進したことを、命令として受容【する/しない】。

難易度3：視床下部からの副腎皮質刺激ホルモン放出ホルモン(CRH)の分泌には、副腎皮質ホルモン分泌と、副腎皮質刺激ホルモン(ACTH)分泌とが負のフィードバックをかけている。両者のうち【副腎皮質ホルモン/副腎皮質刺激ホルモン(ACTH)】からのフィードバックの方が強い。

難易度4：異所性ACTH症候群では、メチラボン試験により、尿中への17-OHCS排泄は【抑制される/不変である/増大する】。

のようなレベル分けになっています。

どのような授業も、予習により効率が増大すると思われま。学生さんに確実に予習してもらうために、「プレテスト」を授業の最初に施行します。範囲は生理学：はじめの一步/

ホルモン系、難易度は2までです。」などとアナウンスして実際に施行する教員の時間的コストは、軽微と思われま。本稿執筆現在、テストは紙面に印刷してテストを施行する、ないし、学生各自のパソコンで施行して教員がその画面を覗いて得点を確認するしかないのですが、オンラインでの成績管理機能も開発をすすめています。

昨秋の小生の内分泌生理学の授業では、「生理学：はじめの一步」/ホルモン系の全範囲、全難易度の約950題の問題をプレテスト、中間テスト、期末テストの範囲としました。最初の授業に施行したプレテストでは平均点74点。実際の授業では、学生がグループごとに与えられたテーマについて発表しました。「生理学：はじめの一步」の図、論旨そのままの発表も、少なくとも座って受身に授業を受けるよりはいい経験だったのではないかと思います。最新のクリニカルパスを調べて発表したグループもありました。学生が作成した発表スライドは、少なくとも小生が作成し得るスライドよりはるかにハイクオリティーであったことは認めざるを得ません。最終授業における中間テストでは平均79点、2月の期末テストでは平均83点でした。自習してもらって難解だった点など、すべて改訂した最新版が現在、掲載されています。

また、再(々...)試験にも使えらると思われま。1回で合格ラインをクリアできなかった学生さんに何回も試験を施行してあげることは、教員にとって時間的に大きな負担ですが、CBTシステムがあれば、何回でも施行してあげられるわけです。「ならば最後の最後まで勉強しない」という学生さんがいないように、正解率で評価するのではなく、合格ラインをクリアした日付で評価する、なんて方法もあるかも知れま。

♪もーすぐはあーるですわー♪とラジオで流れ始めた2月初旬(本稿執筆)現在、「生理学：はじめの一步」がどこまで有用であるのかさらに試せる新年度を心待ちにしています。

編集作業をまったく始めていないのに書き終えた「編集後記」でした...

(渋谷まさと)

*編集執行委員

編集委員

*岡田 泰伸 (一般生理) [編集・広報幹事]
赤須 崇 (神経生理) [九州]
*入来 篤史 (感覚, 運動, 高次中枢)
*河西 春郎 (神経・分泌生理)
川上 順子 (感覚)
北澤 茂 (運動, 認知)
*久保 義弘 (細胞分子生理)
窪田 隆裕 (腎・体液) [近畿]
小泉 周 (感覚)
小西 真人 (筋) [東京]
*小山 なつ (感覚, 神経生理) [HP担当]

佐々木和彦 (神経生理) [東北]
*定藤 規弘 (心理生理)
*渋谷まさと (呼吸・循環)
菅屋 潤壹 (栄養・代謝・体温) [中部]
関野 祐子 (神経化学)
高井 章 (平滑筋, 自律神経) [北海道]
辻岡 克彦 (循環) [中・四国]
美津島 大 (内分泌) [関東]
*村上 政隆 (膜輸送)
吉岡 利忠 (体力)